

全国 50 日青



<http://www.zennissei.com>

zennissei
2015.11 Vol.175

事務局 〒640-8392
和歌山県和歌山市中之島801
安楽寺内
Tel.073-423-4616
Fax.073-423-4619

「戦後七〇年」

（青年僧だからこそ）

第31代会長
和歌山日青会
松森孝雄



第三十一代執行部発足より、早一年半が経とうとしております。全国各単位日青会会員各聖、また私たちの活動に様々なお力添えを賜っております関係各聖各位には、衷心より御礼申し上げます。

本年は終戦七十年という節目にあたり、各メディアでも様々な角度から「戦争と平和」について取り上げられております。私たち青年僧は戦争を知らず、平和の中に生まれ育ち、布教活動の最前線で活動しております。しかしその対告衆となる檀信徒、未信徒の中には、凄惨な戦争の渦中を体験された方も少なからずおられ、私たちが「いのち」に対する「感覚」が違うことは想像に難くありません。日蓮大聖人は「命と申す物は一切の財の中に第一の財なり」「命と申す物は一身第一の珍宝なり」と仰せであり、「命」の価値は洋の東西・時代を問わず第一の財であります。しかしながら、有事の折はその命を奪うことが正当化され、奪い奪われる命を目の当たりにし、他者から奪われるかもしれない恐怖を恒常的に体験した方に青年僧が法を説く時、苦しみや悲しみを共有する「寄り添い」が求められるのではないのでしょうか。

と平和祈願、そして東日本大震災物故者追善法要と復興祈願を営みました。また全日本仏教青年会では、当会より出向されている伊東政浩理事長の強い想いで、激戦地であった沖繩において慰霊と平和祈願、また宗教者からの平和祈願として諸宗教対話を目的とした全国大会が開催され、多くの青年僧の参加をいただきました。これらの活動は青年僧にとり、終戦七十年度の本年、第一の財たる「命」について改めて考える貴重な機会となりました。戦争の痕跡今なお色濃く遺る沖繩の地で感じた戦争の風は、布教の場で「寄り添い」の際の心境に変化をもたらしました。机上で得る知識（教義）を現実の我が命の中に落とし込み（信仰）、それを人々に伝える（教化）という使命を担っている私たちに、とって、経験値の増幅は欠かせません。全日青の活動は、会員各聖の力を集結し、布教伝道に寄与するのみならず、経験浅き青年僧の礎を築くことも視野に入れた企画運営をも求められます。

第三十一代は、青年僧の自発的な行動を促すべく、「躍動」をテーマに活動しておりますが、全国結集や全日仏青全国大会に多くの参加者を得たことは、大変心強く、また有難いことであると感謝しております。

任期は残り半年あまりとなりましたが、各単位日青会さらには会員各聖の布教伝道の礎の一端となるよう、執行部一同一丸となって全力で与えられた任務を全うすべく精進してまいります。

就任の御挨拶

五十周年記念誌作成担当委員長 岡崎 英里

この度、第二十九代に特別委員会として発足した五十周年記念誌作成委員会を引継ぎ、三十一代五十周年記念誌作成担当委員長を拝命させていただきました。

先年、東京池上く品川にて行われました全日青結集五十周年大会、その記念事業の一つとして企画された五十周年記念誌作成に関しては、残念ながら発刊が大幅に遅れ、本年一月での宗務院、六月の岡山結集での代表者会議において、全国の各代表から大変厳しいご意見を頂戴致しました。

その声を受け、「この三十一代執行部の責任において発刊する」と松森会長は明言され、急遽、本委員会の発足との運びとなりました。

現在の進捗状況のご報告をさせていただきますと、「本誌」、「資料DVD」「五十周年記念大会動画DVD」の三本柱の企画のもと、既に記念大会実行委員会において動画DVDの製作は完了しており、それ以外二点の作業を一気に進めております。

具体的には、本誌においては未回収原稿、画像収集、資料DVDにおいては全日青機関誌「全国日青誌」の欠番バックナンバーを取り急ぎ集めながら、印刷業者へ順次入稿しているところです。

お陰さまで、元委員長・会長を始めとする全日青OB各聖、各ブロック並びに単位日青会のご協力を賜り、年初に比較しますと徐々に状況が改善されつつあります。とはいえ、まだまだ資

料的にも内容的にも十分と言うには程遠く、特に歴代の活動を写している画像が不足している状況です。また、発刊費、発送費等を精査致しましたが、現状の予算で間に合うか非常に厳しい状況でもございます。

ここで改めてお願いがございます。今一度、皆様のお手元に過去の全日青の活動写真・画像・機関誌「全国日青（日青連）」バックナンバー、二、四、九、十二、四〇、二八、二二二号、号外、各結集等の印刷物・全日青発刊物以上を是非ともご確認いただき、これらに関して当委員会にお知らせいただきたいと思います。直接お持ちでなくとも、〇〇寺様にある、〇〇上人が持っているはずだ、等の情報でも構いませんのでご連絡をお願い申し上げます。

今後の作業ですが、残念ながら今月中旬には資料収集作業を打ち切り、今月末に全原稿の業者への入稿、年内いっぱいまで校正作業、そして明年一月の代表者会議にて形にしてお披露目をさせていただきます。と、考えております。

全国各聖の皆様、今一度お手元の資料をご確認いただき、情報を賜りたいと存じます。またこちらから改めてのご依頼する事項もあればと存じます。どうぞご協力も助言、そして物心両面のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【資料等連絡・問合せ先】
五十周年記念誌作成担当委員会
〒111-0036 東京都台東区松が谷1-14-6
妙音寺内
電話 03-3844-9498

第五十三回

全国日蓮宗青年僧
中四国結集岡山大会

実行委員長 小笠栄輝

全国日蓮宗青年会では、毎年全国各地で結集大会を開催しております。本年は六月三日（水）・四日（木）に岡山県で結集大会が開催され、三百名近くの僧侶が集いました。

今結集大会では、テーマを「備前法華」大覚大僧正に学ぶ」としました。



第一会場は「妙林寺」。開会前に、さながら大覚大僧正の靈験であるかの如く突然の雨に見舞われましたが、参道行脚の直前には不思議と雨も止み、妙林寺の境内は清浄な空気に包まれました。そして本堂内で戦後七十年の節目を記念して、松森孝雄全国日蓮宗青年会会長を導師に戦没者を弔うための追善法要を営みました。吉田見悠伝道部長、大野玄秀岡山県宗務所長をはじめ、岡山県遺族連盟の理事長、岡山市遺族連合会の会長も参列され、戦没者のご冥福を祈りました。

第二会場は宗門史跡「妙本寺」。大型バス七台で移動しました。妙本寺の参道を行脚し、妙本寺の町に青年僧のお題目の音が響き渡り、温かい雰囲気の中、引き続き松森会長を導師に東日本大震災犠牲者追善・誓願法要が営まれました。大覚大僧正が拠点とされた備前法華の原点であるこの地は今も昔と変わらぬ強い信仰が根付いております。この地にて日蓮大聖人、大覚大僧正に対し青年僧としての誓いを立て、岡山の地から被災地の復興を祈りました。



第三会場は「メルパルク岡山」にて十九時より懇親会を行いました。かつて、日像上人の時代、京都が大飢饉になった際に、大覚大僧正は岡山の地で必死になって浄財を募り、困窮する日蓮門下に心をよせ支援した歴史があります。その大覚大僧正に倣い、被災地の復興活動への支援金として、参加者一人あたり三千元（合計八十三万四千元）を全日青へ託しました。懇親会の最後では、全員が肩を組んで一つの輪となり、「花は咲く」を歌いました。今までにない一体感を感じることができ、感動の結びとなりました。

翌日は第四会場「蓮昌寺」で総会、代表者会議が開かれました。日像上人が魂を込めて書かれ、蓮昌寺の貴重な宗宝である高さ七メートルにおよぶ「大まんだらさま」を今大会のために特別に御開帳して頂きました。

今大会にご参加いただいた皆様には、大会を通じ、岡山の地で「備前法華」を肌で感じて頂ければ幸いに存じます。また、今大会開催にあたり実行委員会一同にて精一杯準備をしてきたつもりですが、当日は移動が多くご参加の皆様にはご不便をおかけしましたこと、また被災地の方々にも配慮に欠ける部分があったことをお詫び申し上げます。

全国よりご参加頂きました皆様、本当にありがとうございます。全国日蓮宗青年会の益々のご繁栄と、皆様のご活躍をお祈り致します。

合掌



「仏法興隆花まつり千僧法要」報告

全日仏青年担当委員長
栃木県日青年会
野澤 智秀

平成二十七年五月二十六日火曜日、全日本仏教青年会主催、東大寺・南都二六会共催、全日本仏教青年会加盟団体協力による、「仏法興隆花まつり 千僧法要」統合の祈り。世界平和 すべての安穩のために「」が伊東政浩全日本仏教青年会理事長導師（全日青二十九代会長・現顧問）の下、全国日蓮宗青年会々々六十数名を含む、全国から集まった四百名を超える超宗派の青年僧侶が奈良県華嚴宗東大寺に結集し本年も盛大に執り行われた。

法要は午後一時、東大寺金鐘会館から各宗派・団体ごとに整列をして、色とりどりの衣帯を着装した青年僧が行列をした。大仏殿に続く参道は大勢の参拝者、小中学校の遠足等のたくさんの人々で埋め尽くされ、伊東理事長を中心に並んだ青年僧の行列がその中を進み、大仏殿へ向かった。今年も東大寺境内で一際注目を浴びていた、全国日蓮宗青年会の団扇太鼓の音と共にお題目の音が響き渡った。一行は大仏殿の毘盧舎那大仏様が鎮座される蓮台に上り、法要が始まった。

各加盟団体の法要を終え、トリを務めた全国日蓮宗青年会は法華経読誦と、木剣修法が厳修された。毘盧遮那大仏様を修法師が丸く囲み、大音声のご法要がなされた。

伊東理事長は日蓮宗から出られた理事長として、自身二度目となる大仏殿礼盤に上られ、各宗派・団体を始めとして、関係各聖各位の世界平和やすべての安穩の為の祈りを御回向で捧げられた。



大仏殿での法要を終えた参加者一同は、アショカピラー宝塔へ移動し、南都二六会会長導師の下、法要が執り行われた。この宝塔は、昭和六十三年に全日本仏教青年会が仏法興隆の願いをもって花まつり千僧法要が行われ、苦悩する人々の心の救済と人類の福祉・世界の平和に寄与することを誓願し、その精神を永く継承し青年僧の思いを後世に伝えることを形にしたもので、それ以降、毎年四月二十六日に執り行われている。（本年は四月二十六日が日曜日であった為、五月に開催された。）

また、参道で全日本仏教青年会広報布教として参拝者の方々に「花の種」



様方におかれましては、是非とも来年もご理解ご協力を賜り、日蓮宗の唱題行脚と修法をもって、仏祖三宝への報謝を実践して頂けたら幸いに存じます。法華経・お題目を社会へ大きく発信していきましょう！

を配布する活動を行った。更に、当日はテレビ朝日「ぶっちゃけ寺」の撮影と、ある制作会社が制作し、今秋頃リリース予定をされている「千僧法要ドキュメンタリーDVD（仮称）」の撮影が行われた。宗派と地域を超えた青年僧の活動が多くのメディアによって社会へ発信できるという大きな機会でもあった。

当日は天気にも恵まれ、全国日蓮宗青年会会員各聖大勢の御出仕のお陰様をもちまして、大円成を致しました。御法務御多用中にも関わらず、全国各地より東大寺にご参集を頂き、日蓮宗儀式に順じた法要と法華経による御回向がなされた事は、大変意義深いものと考えております。大袈裟な言葉ではなく、二年連続で導師を出来た事は、歴史的な快挙であると捉えております。来年の導師は日蓮宗ではありませんが、皆様方におかれましては、是非とも来年もご理解ご協力を賜り、日蓮宗の唱題行脚と修法をもって、仏祖三宝への報謝を実践して頂けたら幸いに存じます。法華経・お題目を社会へ大きく発信していきましょう！

全日本仏教青年会主催全国大会 in 沖繩

立正平和運動担当委員長
渡邊 泰雅

沖繩戦の組織的戦闘が終結した六月二十三日を沖繩県が「慰霊の日」と定め、この日に古くから神奈川一部宗務所を中心として唱題行脚が行われており、全日青としては立正平和運動委員会が長年担当して参加させていた。だいでいる。

周知のように平成二十七年は、終戦七十周年にあたり、初の試みで「全日本仏教青年会主催全国大会 in 沖繩」(主管団体・全国日蓮宗青年会)と共催することとなった。全日青からは松森会長が全日仏青として沖繩大会実行委員長となり企画しており、立正平和担当委員会と全日仏青担当委員会、また全日青各担当委員会が一致団結致して、これまで先師、諸先輩方が長きに渡り築き、行ってきた沖繩慰霊唱題行脚に全日本仏教青年会加盟団体各位を迎え、宗派や地域を超え慰霊の祈りを捧げることができた。

慰霊の日の前日である二十二日には、戦没者に追善供養を捧げると共に、国内で唯一地上戦が行われた沖繩戦についてこの機会に改めて学ぶ場も設けられた。そして、これからの恒久的平和を考える機会として、仏教・キリスト教・イスラム教から講師を迎えて世界三大宗教による平和のための諸宗教対話・シンポジウムも開かれた。青年僧は戦争を直接体験した世代ではない。しかし、戦争体験者から直接その体験談を聞ける最後の世代ともなる。そういった意味合いで、改めて戦争について、平和についてそれぞれが深く考え、翌日に平和行進としての慰



霊行脚を行えたことは誠に意義深い。

全日本仏教青年会の全国大会の中の平和行進との併催であり、全日青は参加者全員が主管団体として、積極的に運営に加わってくれたこともあり、行脚や行進という布教方法に馴染みのない宗派の参加者も含めて、全員が無事に目的地に到着することができた。参加者それぞれが各現場での最大限の活動や配慮の賜物である。その様な互いの気遣い、敬いの中から自発的に発生する活動こそ立正安国・お題目結縁運動においてスローガンに掲げている「いのちに合掌」にも通じるのではないだろうか。

ご協力賜った皆様にあらためて甚深い謝意を表し、報告とさせていただきます。

長崎原爆被爆七十年慰霊大法要

立正平和運動担当委員長
渡邊 泰雅

八月八日、長崎県日蓮宗青年会主催である「長崎原爆被爆七十年慰霊大法要」(光の祈り)が厳修され全日青からも十一名が参加した。

例年八月に長崎県日青会が長崎原爆投下の八月九日にあわせ慰霊行脚を行っているが、本年は長崎原爆被爆七十年ということで、唱題慰霊行脚、慰霊大法要、音楽法要が開催された。また、事前に全国各地より募った慰霊灯籠は二千基を数え、当日は会場の本蓮寺を慰霊の灯りで照らした。

長崎原爆被爆の連夜に、長崎県宗務所渡部所長を導師に十九時より法要が開始され、法要中に長崎日青会加藤会長より「祈りの言葉」が読み上げられると堂内は更なる厳粛な空気に満ちた。

法要終了後には市原隆靖氏の演奏により「笑顔と歌にこそ平和」と題した音楽法要が営まれた。法要と銘打っているが、笑顔の溢れる演奏会の雰囲気となっていた。今の私達が「歌えること」「笑顔で暮らせること」には多くの犠牲が伴っていることを忘れてはならないという思いを、市原氏と十分に共有して演奏会を企画したという。

例年は市内の唱題行脚を中心に活動がなされているが、本年は終戦七十周年という年でもあることから、先述の企画が為されたが、活動はそれに留まらない。六月十五日から広島平和記念公園より長崎平和記念公園までの四百キロメートル超の道のりを二十日間にわたって唱

題行脚するという「広島く長崎、戦没被爆殉難者慰霊行脚」も行われた。この広島から長崎までの行脚を終えると、「被爆供養塔巡り唱題行脚」として長崎市内に点在する供養塔を三回にわけて唱題行脚をするという活動も展開された。



結果岡山大会にて加藤会長よりご案内を請け、中四国ブロックが担当している立正平和運動委員会としては、広島から長崎までの唱題行脚ということで、僅かではあるが行脚に同行させていただく機会を得た。見知らぬ土地をリレー形式で二十日にわたって行脚するという計画を、事前に綿密に調整されており、さらにはFacebookにて毎日、当日のルートを発表し、また翌日の予定を発信していくことで広く大衆にも広報し、また誰でも参加できる環境を整えていた。

「組織で動く」をサブテーマに活動中の日蓮宗であるが、青年僧ならではの組織力が随所に見受けられる、行脚であり、法要であった。

全日青被災地復興支援傾聴ボランティア活動

「第八回お茶っこ会」 福島県南相馬市

震災復興担当委員長 岩手県日青会 梅澤 宣周

平成二十七年七月二日、夏の暑さを感じはじめた福島県南相馬市。初夏の被災地へ、全国日蓮宗青年会は「東日本大震災復興支援傾聴ボランティア活動」を呼びかけ、全国から二十八名の青年僧が南相馬市小高区役所に集結した。

当日の参加者は四十名ほどで、青年層の参加人数も合わせると過去最多となった。八回目のお茶っこ会となれば地元の人たちは青年僧の顔を覚えており、入り口から賑やかな挨拶の声が聞こえたり、開始前から立ち話に花が咲いていた。

このような風景になるまで、丸二年。人と人の信頼関係の大切さは継続することだと強く感じた。そして、地元の人それぞれに受け答えするなかで、



我々青年僧も貴重な経験を積んでいると感じた。はじめの頃は、青年僧が「唯々聴く」という傾聴技術が難題であったことを思いだす。それが今や、相手の意見を尊重しながら否定することなく、きちんと受け答えをしている光景があらわらで目にする事ができた。そこにはきちんと真摯に受け答えする青年僧と地元の人々の笑顔が多く見られた。

傾聴活動も三年目に入り、積み上げてきたものがいよいよ形となってきたと思う。活動が始まるとすぐに参加した地元の方は様々なことを私たちに語りかけてきた。そんな中、今回から「お坊さんに個人的に相談したい」という意見を取り入れ、人生相談のブースを二ヶ所設置した。

そのブースは最後まで相談者が途切れることはなかった。今まで築き上げて来た信頼があり相談している様子が感じられた。

また、宗派という垣根に捉われないこと、僧侶が求められることなく現実がそこにはあった。帰り際に私も相談したかったという声を多く頂いたので、次回からも継続して行いたい。どうしても、周りの

人には聞かれたくない重い悩みを抱え続けている人たちが多く居る被災地の現実。被災地に行かなければ分からない現実はそのことにあった。

やっと回数を重ね、意見を取り入れ、少しずつではあるが心と心が結びあえてきたのではないかなと思う。

震災以後「絆」という言葉を目にしてきた。「絆」とは何だろうか？と考えていた時期もあった。一方通行では「絆」ではないということ。やはり、現地に足を運ばなければ、学びもないし「絆」もないのである。我々がなぜこの時代に生まれたのか？なぜ僧侶なのか？様々な悩みが少しずつ理解できるような気がした。

「そう、お茶っこ会是我々の学びの場であると考える。」

最後に、今回は、臨床心理士の松田寛子さん(宮城県仙台市)をお招きし、レクレーションとして、約十分程度の「座ったままできる体操」が行われた。参加者は楽しく賑やかに体操することができた。体操が終わるとみんなとても満足した様子で、心地よい汗をかいていた。

福島の被災地は、原発という目に見えない恐怖も、未だぬぐいきれないのが現状である。今回参加してくれた青年僧も、各々の立場で福島県や被災地の現状を、その身を以て感じながら、傾聴活動に取り組んでくれたと思う。

「お茶っこ会」未経験の青年僧には、是非今しかできないこの傾聴活動を実践経験していただき、僧侶として人間としての敬いの心を育てていただきたいと感じます。

今後も被災地への継続的なご支援を宜しくお願い申し上げます。活動報告とさせていただきます。

伝統と創造

小松原5丁目 まごころこめて感謝の合掌

●小型より大型まで豊富に展示しております●各宗派仏壇仏具●寺院用具製造直販

角田佛壇店

小松原5丁目
和歌山市小松原通り5丁目(日赤/ス停南100メートル)
本店/☎(073)422-7029

真心の礼拝

御本山御用達 荒行堂専門

有限会社 **香具仏衣法司時**

〒607-8355 京都市山科区西野大烏井町100-253
電話(075)593-1170 FAX(075)581-3424
☎0120-77-1176

集まれ東北の子どもたち開催のお知らせ

青少年教化担当委員長 東北ブロック長
青森立正青年会

川上洋行

第四回集まれ東北の子供たちの開催に際し、ご支援・ご協力いただきましたこと、衷心より御礼申し上げます。

青少年教化担当委員会では平成二十三年度から「集まれ東北の子どもたち」と題し、東日本大震災により親、兄弟を亡くした東北の震災孤児・遺児の支援事業を行ってまいりました。

昨年度の「第四回集まれ東北の子どもたち」では、二十二名の子どもたち（新規参加者一名、新規参加予定の子ども二名がインフルエンザにより急遽欠席）を迎え、震災の傷跡のない、日常とは離れた大都会東京へと、全国里親会、岩手県里親会、日本子ども支援協会、日青塾、過去よりご協力頂いているスタッフ（ミュージシャン、派遣看護師、立正大学の学生、他大学の大学院生、大学生等）、そして皆様のご支援・ご協力をいただき招待することができました。

昨年、出発地の宮古市から、帰りの到着地まで参加者全員を見送り、子どもたちと一緒に過ごしましたが、その道中で気づかされた事があります。子どもたちの送り迎えの際、一人の保護者の車に一人だけではなく、二人、三人と乗っていました。後ほど住所を確認すると、同じ住所の仮設住宅に何人か一緒に住んでいる、一人の保護者が親戚の子ども等を何人か預かっている現状が何件か見られました。

震災によって生活環境、金銭的にも一変した生活により、今まで学校で行ってきたスポーツ活動



本年も青少年教化委員会の事業として、「第五回集まれ東北の子どもたち」を十二月二十六日から二十八日の二泊三日の行程で、東京にて開催致します。子どもたちの要望が多かった原宿、渋谷などを中心に、日本の物に触れ、経験してもらいたいと考えております。

現在、二回のスタッフ会議を行い、様々な意見をいただきましたながら、子どもたちが如何に楽しみ、考え、行動し、笑顔で生活できる将来につながるのかを考え、企画しております。当日は、上野駅のホームにてスタッフ総出で、子どもたちに胸を張って、お帰りと大きな声で迎えたいものです。

一回目に参加した子どもも今では高校を卒業するまでになりました。しかし、支援はそれで終わりではありません。これからの被災地の復興、被災地の未来、日本を担って行く子どもたちへの支援を、ご縁を大切にこれからも続けて参りたいと思っております。

「第五回集まれ東北の子どもたち」の開催は、皆様のご理解・ご協力・ご支援がなければ不可能でございます。今後とも皆様のご理解・ご協力・ご支援をお願いいたします。

クラブ活動、そして進学先を諦めなければならなくなった子どもたちの姿がありました。親や親戚に甘える事も出来ず、親や預かり先の方々も子どもを甘やかすことが出来ない生活は、想像以上のストレスを被災者に与え続けています。

現在、沿岸部の国道は復旧整備され、コンビニや買い物をできる所は少しずつではありますが、増えてきているような気がします。普段の私たちの生活では、気軽に行けるコンビニ、ピザ屋、生活雑貨や食料品をまとめて販売しているスーパー、スーパー銭湯などがあります。しかし被災地の大多数の子どもたちの住まいは、沿岸部の国道より離れた山間部、車でしか移動できない仮設住宅に住んでいることがほとんどです。その子どもたちが少しでも笑顔で前を向いて行けるよう、今後も活動して参ります。



総本山身延山久遠寺・日蓮宗大荒行堂 御用達

身延山ご参拝お土産品 各種記念品等

浪花屋珠数仏具店

店主 深澤永寿

〈東谷参道の老舗〉御珠数・仏像・仏具・太鼓・掛軸・経本・線香・木鉦・印伝・水晶 等

多少に関わらず御用命お待ちしております

〒409-2524 山梨県南巨摩郡身延町身延3550 TEL 0556-62-0200 FAX 0556-62-0771

ドイツ大聖恩寺 創立十五周年記念大法要

平成二十七年六月五日より九日までの日程で、ドイツのビュッパ―ヒュート市に建立された、日蓮宗妙法華山大聖恩寺創立十五周年記念大法要並びに諸宗教対話シンポジウムに参加させていただき、全日青有志五名で渡独した。

全日青便で成田を昼前に出発、約十二時間のフライトであったが空席も多くゆったりしており、参加者は映画鑑賞や睡眠と各々快適に過ごすことができた。

夕刻、ドイツのデュッセルドルフ空港に到着後、送迎車で大聖恩寺へ直行した。アウトバーンでは日本ではありえないほどのスピードで全車走っており、制限速度の無い交通網の凄さを実感した。一般道でも、住宅付近の制限速度が時速五十キロであるのに対し、郊外になると百キロであったりと日本との制度の違いに驚かされた。ただ取り締まりは厳しく、時速数キロの速度超過で捕まるというところであった。到着後すぐに翌日の大法要のリハーサルを行った。長時間のフライトで疲れがあったものの、陽が落ちるのが遅く、夜の八時を過ぎてても外が明るいうことで時差ボケ(日本との時差は七時間)を取るには好都合で、きつちりと時間を使つてリハーサルを終えることが出来た。終了後、ホテルへ向かい、遅い夕食を取って翌日に備えた。

渡独二日目、身延山久遠寺法主親下名代で総務の井上日修親下を大導師に大法要が厳修された。法要後にはレセプションが行われ、昼食後、声明で始まる宗教音楽コンサートが披露された。引き続き開催された諸宗教対話シンポジウムでは仏教、キリスト教、イスラム教の世界三大宗教からそれぞれパネリストが登場し、日本語、独語、英語の三ヶ国語の同時通訳が入ることで一般参加者全員がパネルディスカッションに耳を傾けることができ、大変貴重な経験をさせていただいた。また、終了後に現地の参加者数名と話をする機会があ

あったが、皆様に祈祷の迫力に圧倒されたとのことだった。

翌朝、ホテルを出発し世界文化遺産にも登録されているケルン大聖堂を見学した。ケルンはカトリックの中でも重要視されている大司教区の一つで、歴史も古く、大聖堂の規模に驚愕、圧倒された。堂内では日本語で詳しい案内を受けることができ、世界各地から訪れる信者や観光客に対応できる懐の広さに感動した。

最終日、ライン川遊覧船に乗り、その後周辺を散策した。各自それぞれお土産等を購入し、大型タクシーで空港へ向かい帰路に着いた。旅行中、食事の方はあまり期待をしていなかったのだが、聞いていた評判よりはだいぶ良い方に裏切られた。全体的にジャガイモと加工肉がほとんどで、野菜や魚の種類は乏しかったように感じたが、本場のビールを味わえる機会があり、旅の疲れを癒してくれた。この国では、ミネラルウォーターやコーラなどの清涼飲料水より、ビールの方がはるかに安い値段設定となっており、私にとって大変ありがたい文化であった。また現地の方は、とても日本人に好意的で、にこやかに日本の有名サッカー選手を言い並べるなど、笑顔で対応してくれた。

異国の地に異国の宗教施設(仏教寺院)が建てられたことで誤解を受け、一度は放火・焼失した大聖恩寺だが、見事に再建され地域住民にも宗教対話にとってなくてはならない重要な場所であることを受け入れてもらえるようになるまで、根気強く活動された関係各位の並々ならぬ努力には本当に頭が下がる思いである。

今後も、宗門にとって宗教対話の最前線基地として機能する大聖恩寺の発展を強く望み、参加報告と致します。

多くの青年僧侶にも、今後予定されている海外研修への参加を期待しております。

海外布教研修担当委員長

佐賀県日青会 前田 智瑠

インド

ナグプール龍宮寺 十六周年記念 法要出仕案内

本年も国際佛教親交会よりインドナグプール龍宮寺に於いて開催予定の記念法要への出仕依頼の案内をいただきました。全日青では、先に単位日青会にご案内の通り、例年同様、有志参拝団にて参列を致したく、平成二十七年十一月二十四日(火)〜二十九日(月)の予定で渡印致します。

尚、本年の旅程には、釋尊生誕の地であるネパールのルンピニ、入滅の地クシナガラを廻る仏跡参拝を研修の一環として予定しております。

参加者の中にはインドを訪れるのが初めての方もいれば、複数回参加の方もおります。仏教徒として、何よりお釈迦様の金言たる法華経、お題目を世に広める立場である教師の一員として、インド並びにネパールは一生に一度は訪れてみたい場所でしょう。また、その経験は今後の布教活動において大きな一助となり、自身の財産ともなることと確信しております。

御題目、唱題の功德を以て仏教の故郷インドの地へ錦の御旗を掲げて参ります。

全国日蓮宗青年会企画

インド・ネパール仏跡参拝と 龍宮寺立正平和祈願法要の旅

～釈尊涅槃の地・クシナガラ、生誕の地ルンピニとカトマンズを巡ります～

- 旅行期間 2015年11月24日(火)～11月29日(日)6日間
- 旅行代金 198,000円 (別途、空港税・燃油サーチャージ・インド・ネパール査証代等が必要です)
- 募集人数 15名様(最少催行人員6名様)

旅行企画・実施

ご寺院様の団参はお任せ下さい

株式会社トラベルサライ

官公庁登録 1510 JATA 正会員 ボンド保障会員

東京都港区浜松町 1-12-5

αHビル5F

電話：03-5777-6326

FAX：03-5777-6327

担当：久我通

フリーダイヤル：

0120-408-361



能登海正上人御遷化される

全国日蓮宗青年会第八代委員長、能登海正上人が
 去る平成二十七年五月二十日御遷化されました。
 ここに上人の略歴を紹介申し上げ、哀悼の誠を捧げます。
 心より増圓妙道を御祈念申し上げます。 合掌



能登海正上人 略歴

天正院日海上人

平成二十七年五月二十日御遷化 世寿七十八歳

白山市 経栄寺第九世

金沢市 妙典寺第二十八世

第八代 全国日蓮宗青年会委員長

石川県第一部 社会教化事業協会会長 社会教導師

昭和十三年六月十六日宝乗寺にて生まれる。

師父能登海解上人のもと出家得度。立正大学仏教
 学部宗学科卒業。日頃よりボーイスカウト運動に
 励まれる。第十一回日本ジャンボリー宗教儀礼事務
 局員など歴任。生涯を通して青少年育成と社会教
 化活動に専念される。



行学道場開催のご案内

近畿ブロック長 行学道場担当委員長 藤井淳至

合掌。

今年度も全国日蓮宗青年会主催「行学道場」を開催致します。今年度は、平成二十七年十二月十一日（金）に京都市の大本山妙顕寺を会場にお借りし、曹洞宗の僧侶で青森県恐山菩提寺院代の南直哉先生を講師にお招きして、「現代における伝統教団の根本問題」と題して講演を賜ります。

寺離れ、葬儀離れといった所謂「三離れ」が叫ばれて久しいですが、人々の生活様式や価値観の変化、檀家制度に立脚された寺院運営の行き詰まりなど様々な問題点があり、なかなか解決策を見出せずにいるのが現状ではないでしょうか。しかし、その問題を掘り下げていくと、実際の所は僧侶に対する不信感などがあり、私たち僧侶の本質が問われていることは否定できません。

昨年の行学道場では、講師の内田樹先生（神戸女学院大学名誉教授）より「道場という霊的に清浄な空間を保つことが宗教者の重要な役割ではないか。そして、霊的に清浄な空間がしっかりと守られていれば、自ずと人々はお寺に足を運ぶはず。もし来ないとすれば、それはその空間が穢れているのではないか」と指摘頂きました。寺院運営のスキルを磨くことはもちろん大切です。しかし、私たち僧侶が信仰に基づいて日々のお給仕やお寺の行事に取り組んでいなければ、檀信徒の

方々へ信仰をお伝えすることは難しいでしょう。やはりその為には、まず私たち僧侶が誰よりも仏教、そして法華経・お題目の信者でなければならぬのでしよう。

そこで今年度は、曹洞宗大本山永平寺で十九年の長きにわたり、若手僧侶に対し、僧侶のあり方や教団のあるべき姿についてご訓示してこられた南先生を講師に招き、曹洞宗の現状を話題に、現代の伝統仏教教団が抱える根本問題と、これからの時代へ向けて私たち青年僧侶が取り組むべき課題についてご指摘頂きたいと考え、企画致しました。

また、講演会に先立ち、前回好評を頂きました「ムダ話をしよう」を今年度も行います。「ムダ話をしよう」は、「ムダ」と思える話の中にとっても大切なキーワードが隠れているのではないかと、この趣旨のもと、十〜十五名の小グループに別れて昼食をとりながら、お寺の事、宗門の事、僧侶としての志や悩みなど、グループ毎に自由な話題で雑談をする企画です。

昨年は十二〜三名のグループに別れ、トークテーマは特に定めずにグループ毎に自由に雑談して頂きましたところ、お寺の現状報告、次世代への教化活動の具体例、インターネットの活用例、お寺の公益性、地域への開放、檀信徒の心に響く仏事のあり方など、どのグループにおいても、非常に多岐

にわたるテーマで活発なトークが繰り広げられ、大いに盛り上がりました。今年度も同じようなスタイルで実施し、地域や年齢、肩書きの異なるメンバーで、世間話や談笑を繰り広げながら、それぞれのお寺での取り組みや僧侶としての悩み、各地で起きている様々な事例、お寺を取り巻く環境の変化などについて、肩肘を張らずじっくり意見を交わすことができればと考えております。

【講師略歴】



南直哉師

長野県出身。早稲田大学第一文学部を卒業後、大手百貨店勤務を経て1984年に出家。19年間の大本山永平寺での修行生活の後、福井県雲泉寺住職、青森県恐山菩提寺院代に就任。主な著書に『語る僧侶』、『なぜこんなに生きにくいのか』、『恐山死者のいる場所』、『賭ける仏教』、『出家の本懐を問う6つの対話』、『問いから始まる仏教』、『日常生活のなかの禅』、『修行のすすめ』など。共著に『出家の覚悟 日本を救う仏教からのアプローチ』（アルボムッレ・スマナサーラとの共著）、『禅とハードル』（為末大との共著）、『人は死ぬから生きられる』、『脳科学者と僧侶の問答』（茂木健一郎との共著）など。

筒井筒

井筒法衣店

“御法務の栞” 係

〒600-8503 京都市下京区堀川通新花屋町角（西本願寺前）

フリーダイヤル **0120-075-790** (075) 344-1000 番(代表)

フリーダイヤルFAX **0120-075-480**

井筒東京店 〒160-0008 東京都新宿区三栄町11-6 電話 (03) 3358-1500 番

浄土山浄用造 中 麻布店

株式会社 池澤法衣佛具店

〒604-8116 京都市中京区高倉通六角下ル
TEL 075-221-2769(代) FAX 075-256-0036

●日曜・祝日・第2、第3土曜日は勝手乍ら休業させて頂きます。

通話料は無料(弊社負担)で承ります。(AM10:00~PM5:30迄)

0120-23-4570

【宗教が対話を通し、世界を変える】

次世代へ向けて、繋ぐ「慰霊と平和」の祈り

全日仏青担当委員長
栃木県日青会
野澤 智秀

全日本仏教青年会では、本年終戦七十年を迎えて、沖縄戦事実上終結の日である六月二十三日に合わせ、二十一日、二十三日の二日間にわたり沖縄で全国大会を開催した。

終戦七十年と言う大きな節目の年に、日本で唯一地上戦が行われた沖縄の地で戦争の悲惨さを体感し、「諸宗教対話」により相互理解を深めることで、平和意識を高めようとの願いを込めた。

一日目は、沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハを会場に開催された。会場には宗派、地域を超えた青年僧約三百人と沖縄県内各宗教者、日本国内遠近各地からの一般参加者で埋め尽くされた。大会テーマは「つなぐ世界平和への願いー沖縄戦を学び、沖縄固有の信仰を知り、そして世界三大宗教による対話」。仏教、キリスト教、イスラム教という世界三大宗教の代表者らによる「各宗教における平和発信についての講演」や「世界三大宗教による諸宗教対話」と題して行われた。キリスト教からは、パチカン諸宗教対話評議会次長のフェリックス・マチャード大司教。仏教からは、東方研究所研究員の奈良修一師。イスラム教からは、日本ムスリム協会名誉会長の樋口美作氏がそれぞれ各宗教から代表でお越し頂き、歴史的事実、命とは何か、平和への道などについて対話が行われた。

また、諸宗教対話に先立ち、沖縄市平和ガイドネットワークの照屋盛行氏は「沖縄戦を学ぶ」と題し、戦争体験者から寄せられた凄絶を極めた沖縄戦の現

実について赤裸々に語り、「沖縄民俗辞典」の共編著でもある佐藤壯広氏からは「沖縄固有の信仰について知る」と題して、沖縄「ユタ」の歩みや、神話とスピリチュアリティについて講演がなされた。

二日目に行った平和慰霊行脚では、約二百五十人の青年僧侶が「慰霊なくして真の平和なし」という先人の言葉を胸に、激戦地であった糸満ロータリーから平和祈念公園までのおよそ十三キロの距離を各宗派の慰霊方法で行進した。この慰霊行脚は、すでに御周知の通り神奈川一部日青会、そして全日青が長年にわたり続けてきた慰霊行脚である。その慰霊行脚を全日青が旗振りをして、超宗派の青年僧と共に考えたことは、大変意義深き事であると考えている。

行脚の終着点である平和祈念公園で行われた沖縄県主催の「沖縄全戦没者追悼式典」では、七十年目にして初めて宗教者の席を四席設けて頂く事が出来た。これまで「政教分離」の名の下に、宗教者として関わる事がかなわなかった歴史を考えれば、全日本仏教青年会の想いが一石を投じ、大きな一歩を踏み出したと評価できるであろう。

今大会では、現代社会の裕福な時代に生きる私たち、とりわけ、戦争を知らない私たち青年僧が戦争の凄惨さ、恐ろしさ、平和の素晴らしさを、「対話」



によって認識し合えたことが大きな成果であった。宗教の違いが人類の対立、戦争の理由にはならない事を証明し、諸宗教対話はイデオロギーを超えるという「対話」の意義を知ることが出来た。

次世代へ繋ぐ「慰霊と平和」の祈り、そして「対話」によって築き、結ばれる「平和の絆」。諸宗教対話の意義は大きい。

今大会を開催にするにあたり、おおくの方々に陰に陽にご理解ご協力を賜りました。全国日蓮宗の本山をはじめとする寺院・教会・結社、私共青年僧の先輩各聖、全国各会、そして会場寺院として快くお引き受け頂きました琉球山法華経寺にこの場をお借りいたしました深く深く感謝致しております。

当日、沖縄の地に足を御運び頂きました先輩各聖、全国日蓮宗青年会会員各聖におかれましては、行き届かぬ点多々あったことと存じます。茲にお詫び申し上げるとともに、厚く御礼申し上げます。

御廟所のケヤキ、千本杉の杉

樹齢数百年の身延山の千本杉の杉、御廟所のケヤキいずれも落雷にうたれ、伐採された貴重な銘木です。珠数、お守り腕輪に仕立てます。十分乾燥しております、数に限りがございます。ご注文はお早めにお申し付け下さい。詳しくはお電話にてお問い合わせ下さい。

〒409-2524 山梨県南巨摩郡身延町身延3659

松司軒仏具店

電話・Fax兼用 0556-62-0210

法衣・袈裟

日蓮宗専門店

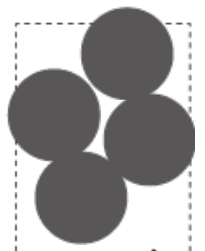
横庄法衣店

〒640-8229

京都市下京区油小路通七条上ル米屋町

TEL (075) 371-8814

FAX (075) 371-1241



一般社団法人日青塾 活動報告

社会教化担当委員長
一般社団法人日青塾理事 藤井 教祥

【第二回全国単位日青座談会】

当企画は主に全国の日蓮宗青年僧を対象とした企画である。全国の各単位日青会が、日頃どのような日青会活動をされているのか、またアピールポイントは何かを日青塾理事との対談でお話いただく。座談会はYouTubeの「日青塾」ホームページから視聴でき、各単位日青会の特色や考え方がインターネットで知ることが出来る。

第二回は平成二十七年五月十三日(水)に開催し、福岡県日蓮宗青年会会長の瀬崎浄雄上人、立野良輔上人、そして九州プロック長、福岡日青会の川崎泰龍上人に御出演いただいた。日青塾では御出演いただける単位日青会を募集している。

【全日本仏教青年会全国大会 in 沖縄】

平成二十七年六月二十二日(月)～二十三日(火)に沖縄にて開催された、全日本仏教青年会全国大会に日青塾は後援団体として参加した。この全国大会は「終戦七十年を迎え、つなぐ世界平和への願い」と題し開催され、初日は沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハにて講演会、追悼法要、世界三大宗教による諸宗教対話、パネルディスカッション、レセプションが行われ、日青塾はそれぞれに参加した。またレセプションでは日青塾のオリジナル数珠ブレスレット「琉球の涙」を参加者にお頒けした。この「琉球の涙」は沖縄戦争にて亡くなった方々への追悼の意と、永遠の世界平和を祈念した数珠ブレスレットである。

二日目は糸満ロータリーから平和祈念公園まで平和行進に参加し、戦争物語の慰霊と世界平和を祈念した。

【第八回お茶っこ会】

平成二十七年七月二日に開催された全国日蓮宗青年会、震災復興担当委員会主催の第八回お茶っこ会に共催団体として参加した。お茶っこ会には福島県南相馬市小高区役所内で開催しており、主に参加者の傾聴活動を行っている。当日は午後七時半より受付を開始し、午後八時開演、午後九時半に終了した。この日は台風で大荒れとなったが、約百名の参加者が来場し堂内は熱気に溢れた。

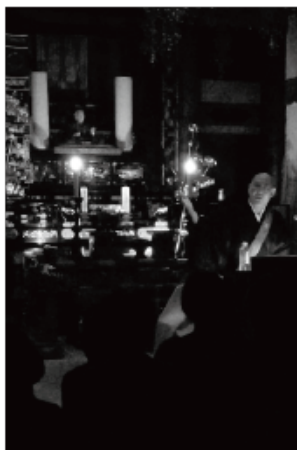


その中のカリキュラムの一つとして、専門の講師の先生をお招きし、参加者一体となってその場で出来る簡単な健康体操を行った。この企画は非常に好評で、笑いの絶えないひと時となった。

終了後の参加者の反応は上々で、多くの方々が怪談話を通して様々な仏教文化を知ることが出来た。大変良かったと述べていた。そして是非またこの様なイベントに参加したいとのことであった。

【怪談 秋の夜長の僧侶語り】

平成二十七年九月九日(水)に港区西麻布の妙善寺(的場徳雅住職)にて日青塾主催「怪談」イベントを開催した。当イベントは昨年に引き続き二回目の開催で、主に信徒教化を目的にしたものである。



語り手は昨年と同じく「稲川淳二の怪談グランプリ二〇一四」(関西テレビ)で優勝を飾った京都蓮久寺住職の三木大雲上人に依頼した。三木上人の巧みな話術と説得力のある分かり易い法話は以前より定評があり、また怪談話ではただ怖い話をするだけでなく、その裏にはしっかりと仏教思想や仏教文化が盛り込まれ、聞いている参加者は知らず知らずのうちに仏教、特に「法華経」に触れることが出来る。

【大阪マラソン出走予定】

日青塾は「東京マラソン2015」に引き続き、平成二十七年十月二十五日(日)に開催される「大阪マラソン2015」にチャリティーランナーとして出走予定。フルマラソンを通し、社会に広く日青塾をアピールすることが目的である。集まった寄付金は東日本大震災復興支援のために「大阪マラソン2015」を通し第三者団体に寄付をする。出走者は松森孝雄代表理事、藤井教祥理事の二名。

【お知らせ】

当法人の活動はFace book「一般社団法人日青塾」またはYouTube「日青塾」に報告しております。是非一度ご覧ください。

創業百有余年

磨き、繋ぐ、百年の技
一体一体手づくりでお届けします

総本山身延山久遠寺、日蓮宗大荒行堂 御用途
全国の日蓮宗各寺院でご利用頂いております。



◎ 取扱品目

- 木札・紙札・金襴御守袋・卒塔婆
- 朱印帳・交通安全守・彫り木守
- ビニール守・記念品・ステッカー
- 熊手・守護矢・その他各種授与品

カタログ送付致します

お気軽にお問い合わせください。

和紙製造 授与品奉製 有限会社 丸井紙店

TEL 055-272-0136
FAX 055-272-3966

〒409-3601 山梨県西八代郡市川三郷町市川大門763

全国日蓮宗青年会 平成26年度 財務決算報告

平成26年5月15日～平成27年6月2日

収入の部

(単位 円)

項目	26年度予算額	26年度決算報告	増 減	備 考
単位日青会分担金	1,800,000	1,850,000	50,000	54日青会の内52日青会
宗務院助成金	800,000	1,400,000	600,000	タイ慰霊出仕者助成金含む
機関誌広告料	300,000	260,000	△40,000	8業者
活動助成金	1,000,000	1,940,000	940,000	
前年度繰越金	1,690,762	1,690,762	0	
雑収入	65,000	180,739	115,739	宗報原稿料・表賀・貯金利息等
収入合計	5,655,762	7,321,501	1,665,739	

支出の部

(単位 円)

項目	26年度予算額	26年度決算報告	増 減	備 考
事業費	850,000	1,142,733	292,733	
各担当委員会事業費	750,000	952,005	202,005	13委員会(機関誌発行代を含む)
ホームページ経費	100,000	190,728	90,728	管理運営費
会議費	580,000	663,025	83,025	
代表者会議	50,000	150,935	100,935	岐阜・池上
執行部会議	90,000	72,090	△17,910	3回
事務局会議	50,000	50,000	0	
各担当委員会会議費	390,000	390,000	0	13委員会(各30,000円)
事務通信費	380,000	309,816	△70,184	
事務用品費	150,000	122,345	△27,655	
郵送費	150,000	144,015	△5,985	
印刷費	50,000	24,126	△25,874	
口座手数料	30,000	19,330	△10,670	ゆうちょ 振込口座
出張費	1,360,000	2,394,847	1,034,847	
ブロック会議	450,000	244,110	△205,890	9ブロック
全日仏青	150,000	580,362	430,362	理事会等
執行部会議	360,000	624,355	264,355	臨時執行部会議含む
その他	400,000	946,020	546,020	タイ慰霊出仕者助成金含む
助成金	1,400,000	1,200,000	△200,000	
ブロック助成金	900,000	700,000	△200,000	7ブロック
結集助成金	500,000	500,000	0	
全日仏青負担金	250,000	250,000	0	加盟負担・協賛広告・大会負担
災害救援対策基金	200,000	200,000	0	
慶弔費	50,000	30,000	△20,000	震災慰霊法要献花料等
予備費	585,762	575,260	△10,502	全日仏青助成金・事務局員交通費助成
支出合計	5,655,762	6,765,681	1,109,919	

〈収入〉7,321,501 - 〈支出〉6,765,681 = 〈次年度本会計繰越金〉555,820円

以上のとおり報告いたします 全国日蓮宗青年会 会長 松森 孝雄 監査 井前 本隆
財務 長内 要純 監査 村越 智浩

総本山身延山久遠寺 日蓮宗祈禱大荒行堂 御用達
水晶・印伝・珠数・印章専門店

英玉堂

雨宮英夫

〒409-2524 山梨県身延山3702番地
電話 0556-62-0023 FAX 0556-62-3376
英玉堂HP <http://www.shokokai.or.jp/19/193651S0025/>

お	札	の	奉	製
経	本	の	製	本
掛	軸	の	表	装

株式会社

隆昌堂

〒546-0002 大阪市東住吉区航全4丁目1-1
電話 (06) 6714-2115 FAX (06) 6714-8700

活動支援金・表賀拝受

ご支援・ご協力を頂いた方のご芳名 (順不同・敬称略)

- 千葉県西部日青会
- 妙立寺 貫名龍祥
- 兵庫県東部日青会
- 長遠寺 都倉隆祥
- 大阪日青会
- 清照寺 星合輝章
- 神奈川県第二部日青会
- 本佛寺 佐野前延
- 新潟県東部日青会
- 泉福寺 丸山邦雄
- 埼玉日青会
- 長延寺内 原恵亮
- 茨城日青会
- 和歌山県 穂谷知子
- 東京都 間宮義重
- 東京都 中村茂夫
- 東京都 遠藤光兒
- 東京都 林 静生
- 静岡県 本覚寺
- 常照寺内 伊東政浩

本会活動に多大なるご支援・ご表賀を賜り、心より御礼を申し上げます。充実した活動のため、活用させて頂きます。ご協力有難うございました。

日蓮宗大荒行堂御用

木村鶴光仏具店

仏像彫刻師
木村鶴光



仏像彫刻・修復
内陣荘嚴具
設計制作
宮仏壇神仏具
念珠各種記念品

〒111-0042
東京都台東区寿 2-8-11
TEL: 03-3844-5911
FAX: 03-3844-5978
※東京メトロ銀座線 田原町下車2分



大陸旅遊

Tairiku Tours & Leisure co.,LTD



時我及衆僧
俱出靈鷲山

国内外を問わず団参は
日蓮宗指定業者

大陸旅遊

日蓮宗指定業者 株式会社大陸旅遊

TEL 03-3376-2511 FAX 03-3376-5280
〒160-0023 東京都新宿区西新宿5-5-6 第二ダイヤモンドビル2階
http://www.tairikuryou.co.jp mail: tlc@tairikuryou.co.jp

観光庁長官登録旅行業第1399号 / 一般社団法人日本旅行業協会正会員

総本山身延山久遠寺御用 日蓮宗大荒行堂御用

数珠製造・仏像仏具・各種記念品土産一式

若松屋数珠仏具店

山梨県南巨摩郡見延町見延3700

TEL 0556-62-0145 FAX 0556-62-0191

振替/0045-5-1624 取引銀行/山梨中央銀行見延支店

E-mail wakamatu@eps1.comlink.ne.jp

ホームページ URL <http://www.eps1.comlink.ne.jp/~wakamatu/>

日蓮宗霊断師会連合会

霊断部長 石黒泰良	教学部長 小泉輝泰	副院長 野澤壯監	霊断院 松本恵昌	教宣部長 廣田学良	教務部長 品田祥皓	総務部長 蔵本知宏	副本部長・聖徒部長 天野行淳	本部 部長 芦田勝康	副議長 松永慈弘	理事 芝崎惠應	副会長 大塩孝信	会長・霊断院院長 末吉観道
--------------	--------------	-------------	-------------	--------------	--------------	--------------	-------------------	------------------	-------------	------------	-------------	------------------

霊断師会九段事務所 東京都千代田区神田神保町3-25-11 九段中央ビル702

TEL:03-6272-9340 FAX:03-6272-9341 URL:<http://www.yorokobi-reidanshikai.jp/index.html>

伝えたい! をお手伝いします

<http://www.e-for.jp/>

取扱品目

印刷全般
機関誌・報告書・名簿・他ページ物
パンフレット・ポスター・会社案内
封筒・名刺・帳票類
ノベルティ・他特殊印刷
メディアミックス
ホームページ企画・作成・管理
ビデオ撮影・編集・パッケージ化
電子書籍・出版
プログラミング・データ処理
掛軸・文化財レプリカ作成

株式会社 イーフォー

〒141-0031 東京都品川区西五反田8-7-11 アクシス五反田ビル202
TEL 03-3779-1140 FAX 03-3779-1141

とりもどしたい...感謝のこころ

仏壇 仏具 泉屋

— 全国優良仏壇専門店会加盟店 —

上本町店 ☎0120-09-1238

〒542-0063 大阪市中央区東平 2-5-15
TEL: 06-6761-8066 / FAX: 06-6761-8699

(大阪) 高槻店 枚方店 奈良店 (京都) 宇治店
瓢箪山店 交野店 生駒店 香里店 楠葉店 田原本店 香芝店 住道店

味が自慢の身延名物
みのぶまんじゅう みのぶようかん

身延山御用達

松屋

身延山門前
山梨県南巨摩郡身延町身延3667
電話 0556-62-0043
FAX 0556-62-2143

みのおまんじゅう (10個入り 900円~)

全国日青加盟単位日青会 会長名簿 (平成27年9月25日現在)

富山県日青会	新潟県西部日青会	新潟県東部日青会	伊豆国日青会	栃木県日青会	茨城県日青会	埼玉県日青会	千葉県北部日青会	千葉県南部日青会	千葉県西部日青会	千葉県東部日青会	神奈川第三部日青会	神奈川第二部日青会	神奈川第一部日青会	東京南部日青会	東京西部日青会	東京東部日青会	青森立正青年会	秋田県日青会	岩手県日青会	山形県日青会	宮城県日青会	福島県日青会	北海道北部日青会	北海道南部日青会	北海道西部日青会	北海道東部日青会	
谷川	齊藤	本田	望月	横山	前刀	山口	小松	西川	田澤	村野	加納	石本	鈴木	田村	山田	野口	最上	小倉	阿部	矢吹	風間	武田	鹿内	菊地	獅子原	岡元	
寛敬	英毅	義昌	飲水	広明	賢雄	剛道	是雄	辨雄	裕泰	仁誠	祥有	真教	悠元	行政	政和	泰宏	泰混	知法	是眞	栄修	信静	寿法	祐生	英徳	光顕	一実	
ハワイ日青会	宮崎鹿兒島沖繩日青会	大分県日青会	長崎県日青会	佐賀県日青会	日連宗熊本県青年会	福岡県日青会	鳥取県日青会	鳥根県日青会	広島県日青会	岡山立正青年会	兵庫東部日青会	和歌山日青会	奈良立正青年会	大阪豊能日青会	大阪三島日青会	大阪和泉日青会	大阪日青会	京都府第二部日青会	京都日青会	三重県日青会	愛知県尾張日青会	愛知県三河日青会	名古屋日青会	岐阜県日青会	長野県日青会	石川能登日青会	石川県第一部日青会
高崎	太田	田口	加藤	静山	三坂	瀬崎	那須	小川	鈴木	小笠	都倉	中井	畠中	藤田	望月	金山	井田	木村	日暮	高津	吉田	小幡	深沢	田中	伊神	井前	諏訪
哲堂	寛周	瑤光	功承	智祐	恵豊	浄雄	孝允	廣教	省我	栄輝	隆祥	通雄	善光	文経	恵真	信利	法幹	朋寛	有宏	崇弘	友謙	潮音	友延	裕史	玄記	本隆	木孝啓

おとうさま
おかあさま
ごくろうさま
おじいさま
おばあさま
おつかれさま
おにいさま
おねえさま
ごちそうさま
おじさま
おばさま
おせわさま
おきやくさま
かみさま
ほとけさま
おかげさま

いつの時代も大切にしたい
「おかげさまで」
という感謝の気持ち。

老舗 乾佛具店
高知本店 ☎0120-29-0072 松山本店 ☎0120-192-248
www.inui-butugu.co.jp

老舗 善屋 宗祖名附茶屋

みのや

〒409-2524 山梨県南巨摩郡身延町身延3703
TEL 0556-62-0312 FAX 0556-62-2526
振替口座 00450-2526
E-mail minoyall@eos.ocn.ne.jp

念珠、仏像、仏具
水晶、印伝、名香
雨知硯、土産品式
印章一式、表装

總本山身延山久遠寺御用達
日蓮宗大荒行堂御用達
各本山寺院御用達

全日仏青理事長 任期満了挨拶

全日本仏教青年会第十九期理事長
全国日蓮宗青年会第二十九代会長(現顧問)

伊東政浩

私は全国日蓮宗青年会(以下全日青)第二十九代会長を務めさせていただき、全日青結成五十周年記念結集大会を以て二年間の任期を満了いたしました。その年の冬、新たに一念発起し、全日青会長就任以来、大願成就を祈願していた遠寿院大荒行に入行し、今までの報恩の意をもつて、さらなる信仰の確立のために加行に勤め、翌年の成満が見えてきた二月上旬、全日青第三十代小泉輝泰会長の引率により、当時の全日本仏教青年会(以下全日仏青)村山博雅理事長(曹洞宗)をはじめ、各副理事長(各全国宗派、各県加盟団体代表)、役員で修行中であられた。加行ご苦労様です。修行中で申し訳ないのですが、我々は次期理事長に伊東師を推薦したいと思っております。との話を聞くも、私はもう全日青は卒業し、全日仏青副理事長の任期も終えた身であり、なぜ来られたのかは別に、せつかくお越しくださった各宗派の僧侶方に、ぜひ表堂の天拝尊神様を拝していただき、荒行僧の不惜身命の姿を見て何かを感じていただきたいという思いで御祈禱をいたしました。おそらく各宗派の僧侶方が一同に座して荒行堂で修法を受けられるのは前代未聞であり、私の想像以上に皆感銘を受けられたという経緯がありました。今思えば「結縁」は始まっていたのです。

成満後、正式に依頼を受け、私は顧問として全日青に戻ることとなり、全日仏青定期理事会に於いて承認され、日蓮宗青年会としては初となる全日本仏教青年会第十九期理事長に就任いたしました。

広し、そして大聖人の教えは未来に向けての大きな広がりを示唆されている。ということ。宗門の中だけにいたらこういった感覚は得られなかったことでしょう。我々全日青会員は約一千二百人、全日仏青の加盟団体の会員は約三万人、一加盟団体だけで我々の宗門教師に匹敵する人数の団体もあり、また宗門同様に公益財団法人全日本仏教会に加盟する全日仏青は、世界仏教徒連盟WFB(World Fellowship of Buddhists)とも繋がりと、くに世界



仏教徒青年連盟WFBY(World Fellowship of Buddhist Youth)とは交流を盛んに行っております。その中で私は世界結集や国ごとにある大会、また会議等に出席し、日本仏教の立ち位置と相互理解の確立のために、何度も出張をいたしました。また年間数回各国持ち回りで開催される国際仏教徒青年交換プログラムIBYE(International Buddhist Youth Exchange)は非常に有意義で、「Club25」(二十五年後、社会で活躍する大人になるべく青年たちを仏教思想のもとに育成するプロジェクト)に添って世界の優秀な青年仏教徒の絆

を深め、仏教の教えのもと未来を築くというもので、私の任期中マレーシアで一度、日本では二度開催され、福島被災地でボランティア活動をしながら震災の現状、原発について学び、ともに祈りを捧げ、東京では各宗派大本山で合宿をし、日本仏教を学び、池上本門寺にも訪れました。修養道場のような信仰に触れる機会と、しつけや思い出づくりといったことも大事なことで、このIBYEはまさに信徒青年会の発展型で、目から鱗が落ちる思いでした。

また世界の仏教の中でも、祖国政府から活動を理解され支援を受けている団体や、全日仏青の加盟団体でも、宗門が青年会を組織の実働最前線部隊として、攻守ともに二人三脚で運動展開をしているモデルケースは大変参考になりました。

任期中、修法師である私は常に「結縁」を心掛けて、どんな時も必ず木剣を持参し、全日仏青で行う法要、また海外に於いて各宗派の法要を行う時、修法をもつて御宝前、時には大衆に対し、法要を行ってまいりました。例を挙げれば、超宗派で行う日本最大規模の奈良東大寺千僧法要、出仕されたことのある宗門青年僧は「結縁」していく大切さを感じてくれたこと、そして、そんな中で驚いたのは、海外の僧侶方は初めて目にする修法について質問をしてくるも、日蓮宗の名前を出すと、決まって原理主義的新興宗教団体と間違えられたことです。私は「日蓮宗は大聖人の正統な宗派である」と誤解を解いてきました。こういったことも「結縁」したからこそ繋がった成果です。しかしなぜ世界仏教でこのような解釈をされるのか、まず我々の中で正

規の場(日本仏教、世界仏教)に出席する者が極めて少ないのが原因の一つに挙げられ、その結果、印象や影響力は推して知るべしとなります。大聖人が「和党ども、二陣三陣続きて迦葉阿難にもすぐれた天台伝教にもこえよかし」と申されているのは「世界の眼目」を指していることでもあり、現代においては正規の場に出向き、法華経の思想で「合掌(対話)の精神をもつて「結縁」し、発言していくことが非常に大事であると実感いたしました。そして伝統仏教の中で、大聖人をはじめ弘通の先師先哲が、辻説法の如く勇氣と、素晴らしい布教のための手立て(修法や唱題行脚等)を編み出され、実践でお示しくくださったこと、「伝道宗門」たる今があります。その報恩をこめて終戦七十周年の節目に、日蓮宗として五十年以上に渡り慰霊平和運動を継続してきた沖繩の地に於いて、全日青主管のもと全日仏青全国大会を開催し、諸宗教対話(キリスト、イスラム、仏教)、超宗派による慰霊大行脚、世界平和をともに祈り、次世代と社会に広く発信する大会となり、全日仏青に於いて日蓮宗は確固たるまさに「柱」の存在となりました。日蓮宗を代表して理事長、副理事長、理事、そして事務局長をはじめとする事務局員が何とぞ皆で二年間務めさせていただくことができたのは「下種結縁」と「但行礼拝」の精神で取り組んできたからこそであります。

最後に仏祖三宝と宗門運動を「お題目結縁」と命名し、御教導賜りました宗門に対し、心から感謝いたしますとともに、御協力を賜りました超宗派すべての各聖各位に厚く御礼申し上げ、そしてこれからも今期で終わることなく、「大海」へと出港する「大船」となるべく「立正安国」を提唱する同志が二陣三陣続かんことを祈念し、任期満了のご挨拶とさせていただきます。

合掌